

全国学力・学習状況調査(6年生)の結果

令和5年度の全国学力・学習状況調査の各教科の調査結果をお知らせします。

【国 語】

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)			
			駒岡小	神奈川県(公立)	全国(公立)	
全体		14	63	66	67.2	
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	5	64.3	70.1	71.2
		(2) 情報の扱い方に関する事項	2	65.4	64.3	63.4
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0			
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	72.7	70.4	72.6
		B 書くこと	1	21.3	25.6	26.7
		C 読むこと	3	65.9	70.4	71.2
評価の観点	知識・技能	7	64.6	68.5	68.9	
	思考・判断・表現	7	62.4	64.0	65.5	
	主体的に学習に取り組む態度	0				

【算 数】

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			駒岡小	神奈川県(公立)	全国(公立)
全体		16	60	63	62.5
学習指導要領の領域	A 数と計算	6	62	67.1	67.3
	B 図形	4	47	50	48.2
	C 測定	0			
	C 変化と関係	4	69.2	72.3	70.9
	D データの活用	3	63	65.2	65.5
評価の観点	知識・技能	9	65.4	67.8	67.2
	思考・判断・表現	7	51.9	57.2	56.5
	主体的に学習に取り組む態度	0			

<裏面あり>

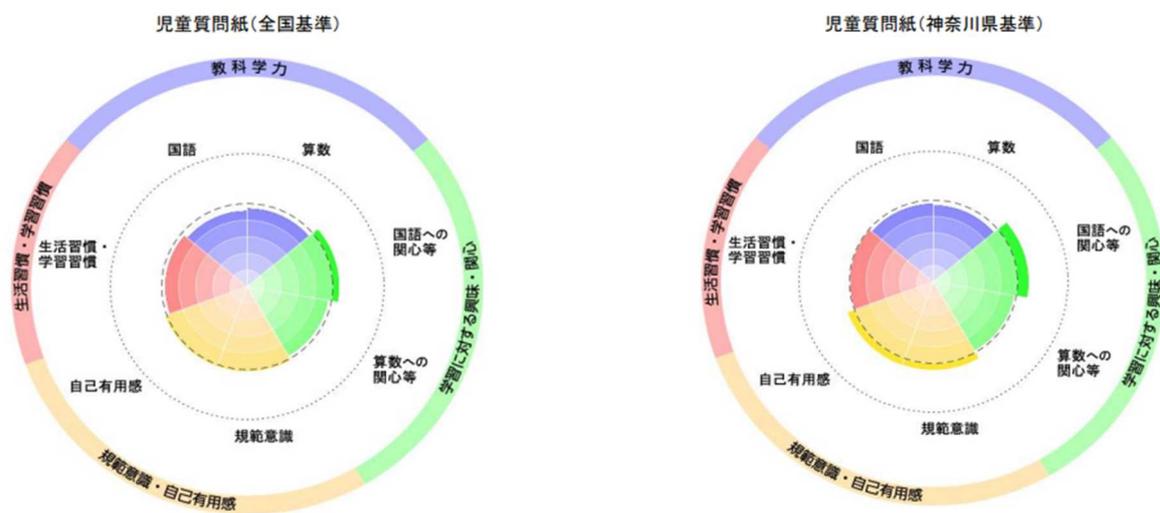
国語、算数の両教科ともに、多くの項目において、全国や神奈川県平均と比べ、若干下回る状況と言えます。

国語では、「思考力、判断力、表現力等」の「A 話すこと・聞くこと」で、全国や神奈川県の平均正答率を上回りました。一方、「B 書くこと」、「C 読むこと」に課題が見られました。「C 読むこと」の「目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができるかどうかをみる」設問では、全国正答率 90.0 ポイントに対して、83.5 ポイントと、6.5 ポイント低い結果となりました。今後は、目的を明確にし、伝えたいことに合わせて中心となる語や文を見付けて、端的に文章化する力を付けていけるよう、取り組んでいきます。

算数では、全ての区分において、全国や神奈川県の平均正答率を若干下回る状況となりました。「正方形や三角形、台形の図形の意味や性質を理解しているかどうかをみる」設問では、全国や神奈川県の平均正答率に近い結果となりました。一方、「示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断できるかどうかをみる」設問では、全国正答率 56.7 ポイントに対して、44.4 ポイントと、12.7 ポイント低い結果となりました。今後は、問題文を読み、算数的に解決するための見通しをもって式や言葉を用いて求め方を説明することができるよう、取り組んでいきます。

児童質問紙調査では、国語への「学習に対する興味・関心」が高く、意欲的に学習に取り組んでいる状況が見られます。このことは、今後の学力向上につながると考えます。一方、算数への「学習に対する興味・関心」は、全国や神奈川県の平均より少し下回る結果となりました。算数への興味・関心を高めていけるよう、「分かる・楽しい」学習に向け、教員が一層の授業改善に取り組んでいきます。

児童質問紙（神奈川県及び全国基準）点線は平均値



質問紙における本校児童の特徴は、「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」、「学級の友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」との質問に対し、「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と答えた児童がそれぞれ 78.1 ポイント、83.6 ポイントと、全国や神奈川県の平均より多く見られます。このことから、各教科において、友達と交流することによって、考えが深まったり広がったりするよさを子どもたちが実感していることが伺えます。今後も学び合いを各教科に取り入れ、引き続き学習改善に生かしていきます。

今年度の結果を生かし、児童が自分のよさや成長を実感できるように、学習や生活において、できた事実を認めて、本人に積極的に伝えていけるよう努めていきます。また、他者との豊かな関わりの中で自己肯定感や自己有用感を高めていけるように、職員一同取り組んでいきます。